

「コロラドの生活」

経営学部経営学科 鳥居弘志

二〇〇五年四月よりアメリカ合衆国コロラド州フォートコリ
ンズにあるコロラド州立大学（CSU）に在外研究員として家
族とともに2年間滞在しました。私は以前単身で数ヶ月アメリ
カに滞在したことがあります。今回は家族と一緒にあつたた
め、以前とは異なった様々な生活体験をすることができました。
ここでは、私達家族のコロラドでの生活について紹介します。

コロラド豆知識

ところでコロラド州と言ってもご存知ない方が多いのではな
いでしょうか。主要な都市としては、州都デンバーとコロラド
スプリングが有りますが、毎年、多くのハリウッドスターが滞
在するアスペンやベイルといった高級スキーリゾートの方が有
名かもしれません。昨年マスコミで騒がれたジョンベネ事件が
起こったのはデンバー近郊のボルダーという町です。ボルダー
といえば日本のマラソン選手が高地トレーニングを行う地とし
てご存知かもしれませんね。また、映画「ボウリング・フォー・
コロンバイン」でも扱われた、一九九九年四月二〇日に銃乱射

事件があつたコロンバイン高校は、デンバー近郊リットルトン
という町にあります。どうも凶悪事件が発生したときぐらいし
か日本のマスコミにコロラドが登場することは無いようです。

コロラドはアメリカ中西部に位置し、州の西側半分はロッ
キー山脈、東側半分にはグレートプレーンと呼ばれる大平原が
広がっています。北はワイオミング州、東はカンザス州、南は
ニューメキシコ州、西にはユタ州があります。他にもわずかに
州境を接する州はあるのですが省略します。州の境界線は東西
南北とも経緯度線に平行な直線という単純な形をしています。
南西の角では、コロラド、ユタ、アリゾナ、ニューメキシコの
四州の境界が十字に交わっておりフォーコーナーと呼ばれてい
ます。しかし、フォーコーナーのある地点は、先住民であるナ
バホ族の居留地内に有るため入るには入場料が必要です。

ゴールドラッシュといえばカリフォルニアが有名ですが、一
八五〇年代にはコロラドでもゴールドラッシュがありました。
今日でもロッキー山中では金やモリブデンなどの鉱物資源の探
掘が行われており鉱業は主要産業のひとつです。石油もわずか
に取れ、小型の石油汲み上げポンプが回っている光景も良く見
かけます。

ロッキー山脈の豊かな自然に恵まれ、登山、ハイキング、ラ
フティング、スキー、釣りなどを楽しむため一年を通して多く
の観光客が訪れます。特に、コロラド中央を東西に走る高速道
路I-70沿線にはベイル、アスペンをはじめとして多くのス
キーリゾートがあり、ほとんどがデンバーから一〜二時間で行
くことができます。

住民の多くが住んでいるのは、ロッキー山脈とグレートプレーンの境界線に沿ったフロントレンジと呼ばれる地域で、この南北に伸びた狭い範囲にデンバー、コロラドスプリングなど主要な都市があります。私達が滞在していたフォートコリンズはフロントレンジにある都市の中では最も北にあり、デンバーから北へ一〇〇キロほど離れています。緯度的には岩手県や秋田県とほぼ同じです。人口が、二万人ほどの小さな町ですが、ラリマー郡の中では最大の都市であり郡庁所在地です。また、コロラド州全体でも五番目に大きい町なのだそうです。もつとも、デンバーとコロラドスプリングを除くと多くの町が人口五万人から一〇万人程度です。フォートコリンズの中心には二万五千人ほどの学生が学ぶCSUがあります。教員、職員、関連業者を含めると人口のかかなりの部分は大学関係者です。もちろんCSUが町の最大雇用主です。大学とともに発展し、あらゆる事が大学中心に行われる典型的な大学の町です。

コロラド 春夏秋冬

渡米前、知人達にコロラドの冬は厳しいという話を聞かされていたので、少し厚着をしてアメリカに旅立ったのですが、デンバーの空港に着いてみると名古屋よりも暖かい。むしろ初夏を思わせるような暑さで、なんとも拍子抜けしてしまいました。しばらく暖かい日が続き安心していたら数日後に突然雪が降りました。その後また暖かい日が続き、日本ではゴールデンウィークが始まろうとしている時期に再び大雪が降り一週間ほ



初めての雪

ど真冬が続きました。一〇月頃に初雪が降ることがあり、五月初旬までは雪が降ることも珍しくありません。フォートコリンズの気候はとても寒暖の差が激しく夏と冬が交互にやってくるような感じですが、フォートコリンズに着いて一週間ほどは時差ぼけに悩まされたのですが、それ以上に私達を悩ませたのがこの寒暖差と乾燥、標高が一五〇〇メートル以上ある高地への適応でした。ここの標高はマラソン選手達が高地トレーニングをしているボルダーとあまり変わらないのです。少し体を動かすと息が切れ、のどが渇き、鼻血が出て、頭痛がするという状態で、適応するのに一ヶ月ほどかかりました。

夏は、気温こそ三〇度以上まで上がりますが湿度が低いのでとてもさわやかです。屋外でスポーツをしても木陰に入れば涼しいのですぐに汗が引きます。夜は気温も下がり、秋を思わせるような静けさの中、虫の音がさわやかさを強調してくれます。寝るのがもったいないような快適さで、ついつい夜更かしをしてしまいます。蒸し暑い名古屋の夏のことを思うと、まるで天国です。冬は、心配したほど厳しい寒さが続く訳ではなく、ひと冬に二―三回訪れる寒波の期間を除けば大方温暖です。ただし、寒波が来ると氷点下二〇度近くまで下がり、最高気温でも氷点下五度程度までしか上がらないような日が二日から一週間ほど続きます。もともと家の暖房がしっかりしていることと空気が乾燥しているためか体感では名古屋の冬の方が寒いように感じました。雪はあまり降りませんし、降ってもすぐにまた暖かくなるので通常三―四日もするとなくなってしまうです。除雪も迅速に行われるので生活に支障を来たすようなことはめっ

たにありません。

コロラドは内陸で乾燥しているため雨や雪が降ることはあまりありません。一年のうち三〇〇日は天気が良いと言われています。日差しが強く外出する時は、あまり肌を露出せず、日焼け止めを付けた方が良いでしょう。夏にはよく雷が鳴るので、多くの場合、落雷だけで雨は降りません。また、天気の良い日でも日本のように一日中雨が降るといいうことはあまり無く、数時間で止んでしまうような降り方が多いので傘を使うことはほとんど有りません。行事の案内にも雨天の場合の注意が書かれていないことがよくあります。とはいえ、毎朝、天気予報をチェックすることは欠かせません。天気が崩れると気温が急激に下がるからです。朝方はポカポカ陽気でも、天気の変化とともに気温が急降下し午後には氷点下五―一〇度ということがあります。全くコロラドの天気は油断がなりません。

異常気象？

先に紹介したのは例年のフォートコリンズの気候ですが、昨年の気候は例年とはかなり違っていました。夏には観測史上最高となるような高温（とはいえ名古屋ほどではありません）を記録しました。特に冬はフォートコリンズに長く住む住人でもはじめて経験するような大雪でした。一月中旬にまず最初の記録的（観測史上二番目？）な大雪が降りました。午前中から降り始めた雪は、昼頃には吹雪になり全ての学校は緊急下校。役所や会社、ショッピングモールなども全て閉鎖されました。

私は友人のクリスマスマスコンサートの手伝いでショッピングモールを訪れていたのですが、すぐにショッピングモール閉鎖のニュースが入り、帰宅しようとしたのですが既に外は吹雪、道路には雪がかなり積もっていました。日本では一度も雪道運転をしたことが無かった私は、コロラドに来てから数回雪道を経験したとは言え、このときのように深い雪道を走るのは初めてだったので、走りやすそうなルートを選びながら慎重に運転して帰宅しました。娘達は高校のカウンセラーが車で家まで送り届けてくれました。翌朝までに六〇センチほどの積雪がありドアも地階の窓も開きません。幸い玄関だけは、小さなひさしのおかげで雪の積もり方が少なく何とか外に出ることはできました。すべてのドアまでの通路を確保し、ガレージのドアが開くようにするまでに丸一日かかりました。大学は既に冬休みに入っていたのですが、中学、高校はこの日以降、前期の残り数日は全て休校となり学期末の試験を行うことなく冬休みに入っていました。処理能力を大きく超える積雪のため除雪はなかなか進まず、さらに学校が休みに入ったことでスクールバスルートの除雪優先度が低くなり、我が家の前の道は数日間深い雪に埋もれたまま放置され、スノーモビルや車高を高くしたジープだけが我が物顔で走り回っていました。歩行者も外出時にはスキーやスノーシュー（かんじきの様なもの）を履いていました。公園やゴルフ場では大人も子供もクロスカントリースキーやそりをして楽しんでいました。初めて雪を見たときには喜んでいた子供達もこの頃になると雪を見るのもいやだと言っていました。その後、暖かい日が来るどころか一週間にわたる

寒波に続き第二波の大雪が来しました。この大雪によりクリスマス前から正月までの期間、行動がとても制約されました。何しろ幹線道路ですら中央部分が除雪されただけの状態で、それ以外の道路ではうまく轍をたどって運転しないと雪に乗り上げて動けなくなってしまうからです。我が家の前でも毎日数台の車が立ち往生し、近所の人たちと一緒に脱出の応援をしました。車には常に雪掻き用のショベルを積んで出かけました。町からすっかり雪が無くなったのは三月に入ってからでした。

治安について

アメリカで家を探すときは住む地域に注意するようにとよく言われます。多少、家賃が高くても治安の良い場所に住みたいですし、家族が一緒の場合にはなおさらです。幸い最初の二ヶ月は受け入れ先の教授のお宅をお借りすることができました。教授が奥様と一緒に六月初めまでドイツに滞在されていたため家が空いていたからです。フォートコリンズに着いてから二ヶ月の間に家を探せばよかったので、インターネットで検索したり大学の下宿案内、他の教授や友人などに相談しながら決めることができました。ところで、最初にある教授に治安のことで尋ね、どこに住んだら良いか相談したのですが、どうも私の言っていることがピンと来ないようで、どこでも好きなところに住めばよいではないかとのことでした。知り合いの日本人に尋ねても「どこでもいいんじゃないですか」とのこと。結局、教授の家のすぐ近くにあった煉瓦造りのかわいらしい家（しかし、



路面電車 シティーパークにて

日本の我が家より大きい)に決めました。家賃は少し高めの一三〇〇ドルでしたが、大学へもダウンタウン(オールドタウンと呼んでいます)へも歩いて行ける距離で、すぐ隣にシティー

パークという大きな公園がありプールや無料テニスコート、市営ゴルフ場があり、便利で環境もよさそうだったからです。オールドタウンからシティーパークまで続くマウンテン通りは煉瓦作りの古い大きな家が立ち並ぶ町並み保存地区になっており、夏の間だけ観光用の路面電車が走っています。我が家はマウンテン通りに面する大邸宅に囲まれるように建っていました。

フォートコリンズはとても治安の良い町で、私達が滞在していた二年の間には凶悪事件はほとんどありませんでした。町を歩いていても危険を感じるような事は全くありません。町の人々は皆とても親切で、田舎のためなのかのんびりしています。窓口などで長時間待たされても決して怒らず冗談を言い合ったり世間話をして穏やかに待っています。見知らぬ人同士でも気軽に声を掛け合い、困っていれば必ず助けてくれます。あるご老人に伺ったのですが、フォートコリンズは、人を親切に変える町、ここに住むと他人に親切にせずにはいられなくなってしまうのだそうです。心のゆとりなんでしょうか。私もかなり影響を受け、困っている人を見かけるとつい声を掛け手伝ってしまふようになりました。

治安の良さに加え、地震、ハリケーン、竜巻といった自然災害も有りません。降水量は少ないのですが、町を流れるキャシャ・ラ・プーダ川は、ロッキーマウンテンからの雪解け水のおかげで八月末頃までは水量が多くラフティングの名所になっています。山、川、湖、平原など海以外の自然は町の近くにありアウトドアのレクリエーションには事欠きません。最近では町の中で

見かけることは少なくなってきたようですが、郊外では今でも多くの野生動物を見かけます。それらのことも有ってか、老後を過ごしたい町、子育てをしたい町などとしてフォートコリンズの名前が挙げられます。MONEYという雑誌ではBest Places to live, 2006 トップ一〇〇のトップに選ばれています。住んでみて初めて分る住みやすさ、といったところででしょうか。私も機会があったらまた住みたいと思っています。

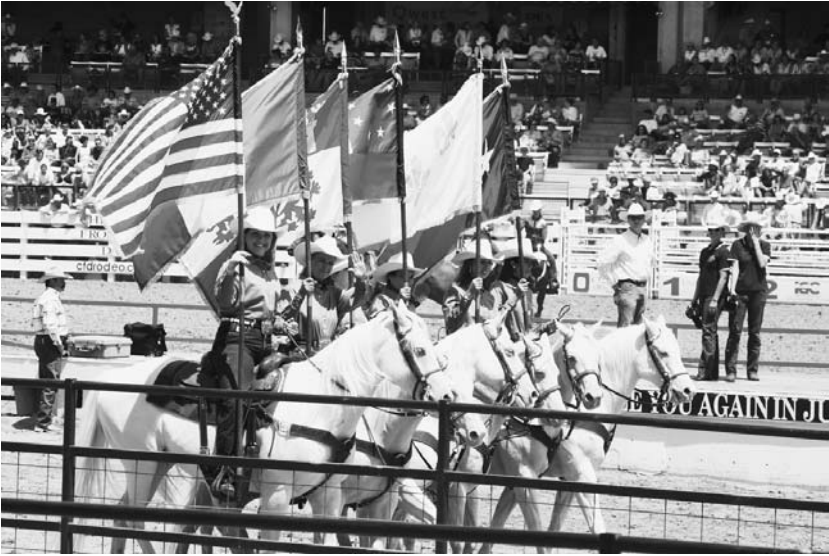
生活情報

アメリカの物価は、衣食住とも日本に比べて低めです。借家やアパートの家賃は日本と大差は無いのですが、不動産価格はかなり安いので、少し長く住むなら家を借りるより買った方が得なようです。衣料、食品もかなり安く手に入ります。肉類や乳製品、米などは日本の半額程度です。日本ではアメリカ産牛肉のBSE問題が騒がれていましたが、発生頻度が日本に比べて低いこともあってか気にしている人はほとんどいませんでした。野菜や魚はあまり種類が多くありません。レストランでの食事代は日本と同程度。マクドナルドなどのファーストフードは、飲み物を飲まなければ日本のほうが安いかもしれません。ソフトドリンクもコーヒーも一ドル程度で、しかも、多くの場合お代わり自由です。レストランでチップを払いたくない人やメニユーが良く分からない人にはパフェ（立食形式の食べ放題レストラン）がお勧めです。中華や寿司、イタリアン、アメリカンなど様々なパフェ形式のレストランがあります。値段も六〜

一〇ドル程度でお値打ちです。アメリカの食事は特別おいしい訳ではありませんが、不味くもありません。量は多めで、特に中華は人数分注文すると食べきれません。日本食を食べられるレストランは四〜五件あるのですが、味はアメリカ人向きに少し甘めになっていることが多く、今ひとつといったところです。一件だけ日本人がやっている寿司屋があり、値段は他の店より少し高めなのですが日本の味を楽しむことが出来ました。

衣料、雑貨などのショッピングは、フォートコリンズにただ一軒あるショッピングモールかROSS、TARGETとった量販店に限られてしまします。娘達の不満が最も大きかったのがこのショッピング環境の貧弱さでした。また、フォートコリンズの若者はファッションにはあまり関心が無いようで、男も女もジーパン、ティーシャツにスウェットかパーカーといった格好です。カウボーイ、カウガールスタイルの高校生も結構いました。実際、家で馬を飼っていることが多いので本物なのかもしれません。しかし、こういったスタイルがわが娘達には、田舎っぽく感じられ気に入らなかつたようです。

車社会のアメリカでは、近年、ガソリンの価格が常に人々の関心を集めています。一五年前アメリカに滞在していた時には、一ガロン八〇セント程だったと記憶しているのですが、今では三ドル近くまで上昇しています。リッターあたり九五円程度です。日本に比べればまだ安いのですが、走る距離が違うのでこの値段は深刻です。GMやフォードのトラックが売れなくなり、燃費が良く故障の少ない日本車や韓国車に人気が集まるのは当然でしょう。



カウガール達 ロデオ会場で

コロラドでは、国際免許を持っていても住民になったらすぐに免許を取得しなければなりません。インターネットでテキストをダウンロードし一通り目を通したところで試験を受けに行きました。受付で番号札をもらい待合室へ。様々な要件の来訪者を一人ずつ窓口で処理しているのでとても不効率です。待つこと三時間、やっと番号が呼ばれ窓口で問題用紙を受け取り、待合室に戻って解答開始。時間は無制限ですが、四択式で英語が分かれれば解答は簡単。日本の運転免許試験のようなひねくれた問題は出ません。二〇分ほどで解答を終え、窓口に行くと、その場で採点します。結果は単語の意味がわからなかった一問を除き残りは全問正解で合格。視力検査をして写真をとります。最後に受付で路上試験の予約を入れてその日の試験は終了。路上試験は、自分の車で試験官の指示にしたがって一〇分ほど運転しておしまい。事故や違反が無ければ合格で、再び写真を撮り仮の免許証が発行されます。二週間ほどで運転免許証が自宅に郵送されてきました。免許取得に要した費用は二五ドルです。

アメリカは車の売買手続きがとても簡単なので個人間の取引が盛んに行われています。車を売りたい場合には新聞や雑誌、インターネットの中古車情報欄に宣伝を載せます。また、車に「For sale」と書いた紙を張り連絡先を書いておきます。私の場合、最初の車はインターネットの中古車販売サイトに広告を出しました。数件のコンタクトがあり値段が折り合った相手に売りました。一般に中古車価格は日本より割高です。かなり程度の悪い車でも、走る限りは売る人がいて買う人もいます。私も

二台目の車は帰国直前に事故に遭い助手席の窓が割れ、ドアも開かなくなつたのですが、ムービングセールのホームページに事故車として格安の広告を載せたらその日のうちに売れました。ジャンクヤードで必要な部品を集めて自分で直すそうです。取引が成立したら、売り手はタイトルと呼ばれる車の所有権を示す書類に売値とサインを記入して買い手に渡し、郡役所にナンバープレートとサインを返却すれば完了です。費用はゼロ。買い手は、受け取ったタイトルを郡役所に持参し、売買金額に応じた税金を取ればその場でナンバープレートが発行されます。売買金額の妥当性のチェックも車体検査や排ガスチェックも何もありません。カリフォルニアなど他州での手続きは、もう少し面倒なようです。

フォートコリンズにはCSU、オールドタウン、コミュニティカレッジにそれぞれバスターミナルがあり市内の主要なポイントを市営バスが結んでいます。CSUの学生と一七歳以下は無料で行けるのですが、カパーしている地域が十分ではなく、CSU通学用の主要路線以外は本数も少なく、しかも日曜は運行していませんのであまり便利ではありません。一方、身体障害者のためにはDial-A-Rideというリフトの付いた特別なバスが運行されており、リクエストに応じてドアツウドアでの市内移動を保障しています。自転車道が整備されているので、その気になれば町じゅうどこでも自転車で行くことは出来ます。CSUの学生達は、よく自転車を利用しています。しかし、デンバー空港行きのシャトルバス以外には他の町へ行く公共交通機関が無いので車が運転できないとやはりとても不便です。

学校

コロラドではほとんどの地域が、小学校六年、中学校二年、高校四年というシステムを採用しているのですが、フォートコリンズでは、なぜか中学校三年、高校三年でした。アメリカではよく小学校からの通し学年、つまり、中学生は七、八年生、高校生は九、一二年生と表します。高校も義務教育で受験が無いので、九年级が中学なのか高校なのかはあまり問題ではないようです。しかし、クラブ活動は対外試合を行う関係で九年级は高校のクラブに所属しなければなりません。

コロラドの新年度は他州より少し早く八月中旬に始まり、五月末に終了します。したがって、娘達はコロラドの学校に転校してから約二ヶ月の間、日本で終えた学年をもう一度やることになりました。英語も学校の仕組みも良く分からない娘達にとつてこの二ヶ月は、新年度に向けたとても良い準備期間になりました。特に末娘は小学校で多くの良い友達ができ、二度目の卒業式も経験しました。六月になるとサマースクールが始まります。単位を落としたりした学生の補習、スポーツ、外国人用の英語教育(ELL)などのクラスが開講されます。ELLは無料ですが、あとは有料です。我が娘達は三人ともELLとテニスのクラスを取りました。クラスは毎日ではなく、期間もほとんど重ならなかったもので、二回の欠席だけでうまく両クラスを受講することが出来ました。夏休みに通ったELLでの英語の勉強は、新学期からの授業を受ける上で役に立ったようです。テニスは予選に勝ち残り、ボルダーでの決勝大会まで行ったの

で、終わった時には七月中旬になっており、夏休みは一ヶ月ほどしか取れませんでした。

アメリカの小学校は、日本と同じように担任の先生がいてクラス単位で授業を受けます。しかし、中学、高校になると小学校のようなクラスは無くなり、学生の選択と各科目の修得レベルを勘案しカウンセラーが各人の時間割の原案を作成します。学生は授業を受けてみて必要があれば変更の申請をします。時間割は学生ごとに違うので毎時間クラスメートの顔ぶれは変わります。小学校と違って外国人には友人を作りにくい環境です。一般クラスの他に英語の出来ない外国人用のELLクラスが科目ごとに設定されています。娘達は英語が出来なかったのでELLクラスで勉強しました。ただ、数学だけは初めから一般クラスで勉強することになりました。

アメリカでは教科書は貸与制で、授業が決まると該当する教科書が貸し出されます。教科書は、どの科目も百科事典のように大きくてページ数も多くとても重量があります。内容は詳細で懇切丁寧、多くの例題や練習問題が解答付きで載っています。教科書があれば参考書も問題集も必要ありません。教科書は学校の個人ロッカーに入れておき、授業ごとにロッカーまで交換しに行きます。宿題のある科目のみ家に持ち帰っていました。日本の貧弱な教科書に比べると羨ましい限りです。日本もそろそろ無償制度を見直しても良いのではないのでしょうか。

アメリカの学校は朝が早く、中学、高校は七時四〇分に授業が始まります。しかも、四月からは一〇月までは夏時間なので実際には六時四〇分から学校が始まっているのです。小学校は

朝九時からなのですが、通学時は親が学校まで送り迎えをしなければなりません。中学はスクールバスが一般的ですが、家が近ければ自転車や徒歩で来ます。高校になると多くの学生が自動車で通学します。もちろんスクールバスを利用してはいる学生も大勢います。我が家の場合、中学はスクールバス、高校は毎朝車で送ってゆきました。娘には免許を取らせようと運転の練習をさせたのですが、運転は不向きなようですぐに諦めてしまいました。

放課後のクラブ活動は任意ですが、日本のようにひとつのスポーツに打ち込むことは無く、季節ごとに種目を変えてゆきます。曜日が重ならなければ、同時に複数のスポーツをやっても構いません。娘は中学でテニス部に入ったのですが、期間は八月下旬から一〇月末までの二ヶ月強でした。バランスの良い体力作りと、自分に適したスポーツを見つけないという意味では教育的なのかもしれません。学校での子供たちの活動には親の協力が求められます。テニス部のコーチ探しと謝礼、試合への送り迎え、スナックや飲み物の差し入れなどすべて部員の父母が分担します。

この辺で…

まだまだ、書きたいことはたくさんあるのですが長くなってしまうのでこの辺で一区切りとします。取り留めの無い文書になってしまいましたが、何かのご参考になれば幸いです。